

中学部 I コース研究

研究グループの概要

- ・ 中学部 I コース（知的障害） 在籍生徒21名（1年生6名、2年生9名、3年生3名）
- ・ 研究グループの構成は、担任11名＋学部主事1名

◎研究経過

①生徒の実態把握

- ・ ラーニングマップ（※1）を活用し、担当する生徒の国語・数学の学習における段階をチェック。その後、同じクラスの担任間で生徒の実態について話し合い、教科学習における生徒の実態を確認した。
- ※1 『「ラーニングマップ」から学びを創り出そう』 ジアース教育新社

| | 国語 | | | | 数学 | | | |
|------|----|----|----|---|----|----|----|---|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
| 小1段階 | 3 | 2 | 2 | 7 | 4 | 3 | 2 | 9 |
| 小2段階 | 1 | 3 | 0 | 4 | 2 | 2 | 0 | 4 |
| 小3段階 | 3 | 1 | 0 | 4 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| 中1段階 | 1 | 3 | 2 | 6 | 0 | 3 | 2 | 5 |

②「授業実践シート～指導と評価の一体化を目指して～」を活用した授業実践

- ・ 担当する生徒の中から事例対象として1名選び、国語と数学のどちらかを選択した。
- ・ 後期指導計画より単元を1つ選択し、目標と評価規準、どのような授業にしたいかをシートに記入して授業を開始した。
- ・ 個人ワークに加え、シート作成時や実践報告等で出された課題等に合わせ、学年やクラスワークを設定しながら進めた。

【実践事例】

The screenshot shows a detailed lesson plan for a reading unit in Japanese. It includes sections for '授業の目標' (Lesson Objectives), '評価規準' (Evaluation Standards), and '授業の展開' (Lesson Development). The plan is organized into columns for '1年' (1st year), '2年' (2nd year), and '3年' (3rd year), with a '計' (Total) column. The content describes the use of learning maps and differentiated instruction based on student abilities.

③実践事例について意見交換と情報共有

- ・ 評価規準と評価基準は、◎○△のどこを目標達成の基準（標準）とするのか。また、△は学習に参加しなかったという内容でよいのか。
- ・ 実態に合わせた学習段階であったか。また、手立ては有効だったか。
- ・ 国語、数学の学習内では内容を理解しているが、生活の中では学習したことを活用する力が身につけていけない生徒に対して、どのように指導していけば良いか。

◎研究の成果と課題

【成果】

- ・ 評価規準と評価基準の基礎研修を通して、それぞれの違いを学ぶことができた。
- ・ 学習内容を設定するにあたって、生徒の実態を正確に捉えると共に、生徒の将来をイメージした授業づくりをすることが大切であることを確認することができた。
- ・ クラスや学年の担任間で、生徒の将来を見据えた生徒像を共有できた。
- ・ 授業を計画するにあたっての考え方や評価の立て方、授業と日常生活を結びつけて指導していくことが必要であることを確認することができた。

【課題】

- ・ 評価規準と評価基準についての理解が不十分である。
- ・ 集団授業での評価規準と評価基準の◎○△の設定基準と、複数教員による評価時の基準の統一。

◎次年度に向けて

- ・ 国語、数学の学習における、生徒の実態把握や身に付けさせたい力、指導の手立て等について、クラスや学年で情報交換しながら進めていく。また、国語、数学で学習している内容を、生活の中でも意図的に設定し実践していけるとよい。
- ・ 評価規準と評価基準について、しっかりと理解して目標の設定と統一した評価ができるように研修を積み重ねていけるとよい。